

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	871400172		
法人名	医療法人永慈会		
事業所名	ひたちの森スマイルハウス高萩		
所在地	高萩市有明町2-98 (電話) 0293-20-5530		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年9月10日	評価確定日	平成20年3月4日

【情報提供票より】(平成19年8月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月6日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤19人, 非常勤	人, 常勤換算19人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2階建ての	～ 階部分 単独型

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,400 円	その他の経費(月額)	54,600 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,425 円			

(4) 利用者の概要(8月21日現在)

利用者人数	26名	男性	9名	女性	17名	
要介護1	8	要介護2	7			
要介護3	5	要介護4	3			
要介護5	3	要支援2	0			
年齢	平均	81歳	最低	63歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永井ひたちの森病院 鈴木歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは医療法人が設置主体となっており、利用者の健康管理や緊急時の対応等について、病院と速やかに連携を図る体制となっていることから、利用者や家族は医療面の不安なく過ごしている。
運営推進会議の議題に災害対策や外部評価などの検討課題を掲げ、意見交換を行うとともに、委員等にも協力を得られるよう働きかけている。
事業所で独自の勉強会を毎月行い、介護技術の向上を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を踏まえ、介護計画の随時の見直し、水分摂取量の記録の整備、職員育成に向けた研修の実施など、改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が外部評価の意義を理解するとともに、自己評価に取り組んでいる。 外部評価の結果を踏まえ、自らの気づきや改善に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の議題に災害対策や外部評価などの検討課題を掲げ、意見交換を行うとともに、委員等にも協力を得られるよう働きかけている。 介護支援専門員が市担当の窓口を訪問し、事業所の取り組みやケアサービスなどについて相談している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 各ユニットの入り口に意見・苦情箱を設置するほか、ホーム通信でも働きかけている。 また、家族会の中で常に問いかけを行い、出された意見・要望を運営に反映している。 月1回定期的にホーム通信を発行し、家族の方々に利用者の暮らしぶりや職員の動行を報告している。 金銭管理は出納状況を伝票に記入するとともに、コピーを家族に送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の小学校の運動会、幼稚園の遊戯会に招待を受けたり、事業所の夏祭りや季節の行事、ボランティアの受け入れを通して、地域の人々と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは、利用者が家庭的な環境で地域の方々と交流しながら、その人らしい人生が継続して送れることを願い、これを独自の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、職員間で話し合う場を設け、確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校の運動会、幼稚園の遊戯会に招待を受けたり、事業所の夏祭りや季節の行事、ボランティアの受け入れを通して、地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価の意義を理解するとともに、自己評価に取り組んでいる。 外部評価の結果を踏まえ、介護計画の随時の見直し、水分摂取量の記録の整備、職員育成に向けた研修の実施など、改善している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議題に災害対策や外部評価などの検討課題を掲げ、意見交換を行うとともに、委員等にも協力を得られるよう働きかけている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護支援専門員が市担当の窓口を訪問し、事業所の取り組みやケアサービスなどについて相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回定期的にホーム通信を発行し、家族の方々に利用者の暮らしぶりや職員の動向を報告している。 金銭管理は出納の状況を伝票に記入するとともに、コピーを家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの入り口に意見・苦情箱を設置するほか、ホーム通信でも働きかけている。 また、家族会の中で常に問いかけを行い、出された意見・要望を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよう、ユニット間の交流に努むとともに、職員間でも情報を共有している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	設置法人主催の研修会及び管理者の研修会を行うほか、新規採用時には施設研修及び外部研修等を受講できる。 事業所で独自の勉強会を毎月行い、介護技術の向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所の行事や夏祭りなどの行事に参加を呼びかけ交流しているが、地域の同業者とのネットワークづくりや勉強会を実施するには至っていない。	○	事業所で行っている勉強会などに参加を促すなど、地域の同業者とネットワークづくりや勉強会及び相互訪問等の活動が行われることを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に介護支援専門員や担当者が実態調査を行い、利用者の不安・要望等を聞き取るとともに、信頼関係を築けるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者が人生の先輩であることを常に意識するとともに、利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がホームでどのように暮りたいか、思いや希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の思いや意見を聞き、利用者が自分らしく暮らすために課題となることを職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、利用者の状況に変化があった場合は、必要な関係者と話し合い、随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援に柔軟に対応しており、個々の満足度を高めるよう努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じたかかりつけ医を決定している。 病状に応じて定期的な受診等、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は重度化や終末期の対応について、利用者の要望に応じて支援できるよう、取り組み方針を共有している。 利用契約時に看取りに関する指針を説明するとともに、利用者や家族・医師・看護婦を交えて話し合いを行っている。 終末期の対応マニュアルを作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員が個人情報保護法の理解に努めるとともに、秘密保持の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮するとともに、その日をどのように過ごすかの希望を聞いて、希望にそって支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 食事前に嚙下に有効とされる「パタラ」という言葉を唱和し、喉の通りを良くしている。 利用者の好みに配慮した献立をたて、提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合せた時間に入浴できるよう支援している。 入浴を嫌がる利用者には、言葉かけや対応方法を工夫して、入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に1度は外食やドライブに出かけている。 遠出の外出や誕生会の会食場所等について利用者と相談している。 デイサービス利用者と交流している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者から希望を取り、買い物、ドライブ、散歩などの外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者が徘徊する理由を理解し、外に出たい場合は抑制せずに行動を見守るなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成するとともに、避難訓練を消防署の指導により定期的に行っている。 特に夜間帯の避難について地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	○	災害用備蓄品も事業所として、燃料・簡易トイレ等の保管が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分の摂取量をチェック表に記録し、職員全員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内に心地良い音楽を流すとともに、季節に合った飾りつけや草花を活けるなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に本人の使い慣れた装飾品や好みの品を持ち込み、利用者が今までと同じような環境で、安心して過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。